

高安の里におけるニッポンバラタナゴの生息環境を保全するための地域づくり

活動地域  大阪府

ひろげる助成

3年目

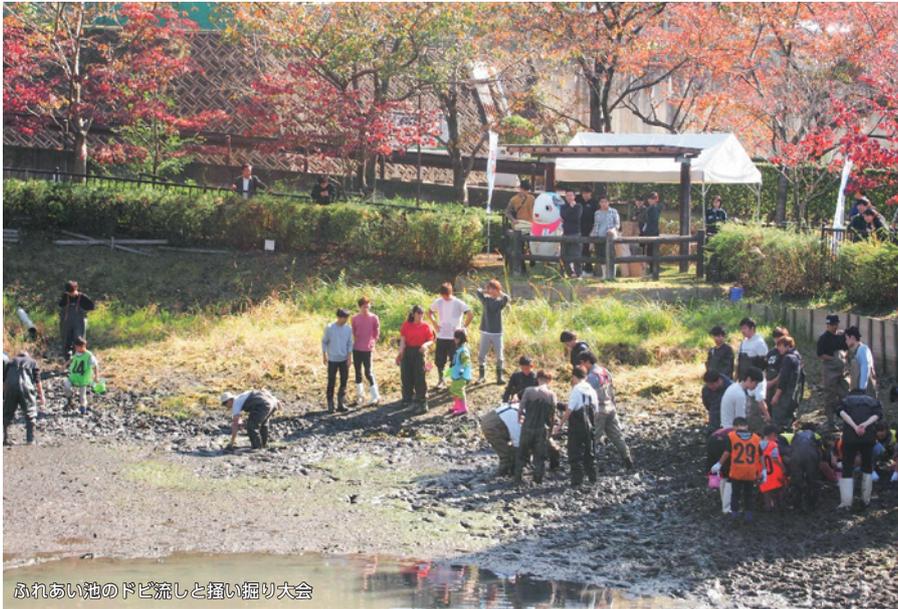
実践

ニッポンバラタナゴ 繁殖個体数 **約20,000尾**

河内木綿の収穫量 **62 kg**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **90%**



ふれあい池のドビ流しと掻い掘り大会

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

ニッポンバラタナゴの保護池の底樋の破損や外来種の放流による生物多様性の減少を考慮して、危険分散のために、一時避難のための保護池をいかに確保するかが課題になった。

■ 工夫した点

高安まちづくり協議会と協働し、廃校となった地元小中学校の3か所の中庭池を利用して、ニッポンバラタナゴを危険分散させるための一時避難場を確保することができた。

課題

大阪府八尾市高安地域に生息する絶滅危惧IA類のニッポンバラタナゴを含む生物多様性の減少が危惧されている。その生息環境を保全するための地域づくりが必要である。

目標

高安地域の里地里山を自然再生することによって、ニッポンバラタナゴ(キンタイ)を含む生物の生息環境を維持することが、持続可能な地域づくりに繋がることを実証する。

活動内容と成果

高安地域の里山において、森林整備(約3ha)を実施し、水の循環系を健全化し、自然災害を防止すると同時に、ヒノキやクスギなどの森林資源を利用した木育活動を実施した。一方、里地ではニッポンバラタナゴが生息しているため池調査を実施し、その周辺の休耕地を利用して、河内木綿や地場野菜の無農薬有機栽培を実施した。また、地元の農家と協働してキンタイが生息しているため池の水を利用した“きんたい米”をブランド化し、販売を促進した。さらに、まちづくり協議会と協働して、廃校でエコツーリズムの拠点づくりを推進した。



廃校の実験室を利用した生物多様性博物館



廃校のグラウンドを利用した河内木綿畑

全助成期間の活動を振り返って

ニッポンバラタナゴを含む生物の生息環境を保全するために、高安地域の里地里山の自然再生活動を推進してきた。高安山の水の循環系を健全化し、ニッポンバラタナゴが生息する保護池周辺において河内木綿や地場野菜の有機栽培を促進し、エコツーリズムを展開することによって、自主財源の確保に努めてきた。しかし、保護池の底樋の破損や外来種の放流などの課題が生じ、直接的なニッポンバラタナゴの保全活動の重要性を再認識した。

〒581-0872
大阪府八尾市郡川4-28
電話：090-6607-6336
E-mail：n_baratanago@yahoo.co.jp
HP：http://n-baratanago.com



今後の展望

高安地域のニッポンバラタナゴを保全するために、里地里山の生態系サービスを持続的に利用できる地域循環共生圏づくりを促進していく。そのため地元ではまちづくり協議会と協働し、廃校になった小中学校の跡地を利用して、高安地域の魅力を発信できる場づくりを推進する。また、八尾市の都市部のものづくりを得意とする企業や住民と連携・補完し合いながら、自主財源となる商品開発やエコツーリズムを推進していく。